

仕事への誇り、遣り甲斐

～私の仕事～

安田 匡文 阪奈中央病院 臨床検査科

昨今、言われている臨床検査の「冬の時代」。保険点数のマイナス改定により年々収入が減ってきており、検査室運営において非常に厳しい状況となっています。これらの波は臨床検査業界のみならず、医療業界全体に及んでおり、検査関連会社の合併や病院の経営難、買収問題があちらこちらで囁かれております。

この厳しい時代に臨床検査科を任せ管理運営していく私なりの考え方について述べさせていただきます。

【病院の概要】

〔病床数〕 199床

〔外来数〕 1日 450人

〔職員数〕 約300人（グループ 約1000人）

〔関連施設〕 13施設

【臨床検査科の概要】

〔検査技師〕6名（パートを含む）

〔平成13年の収支〕

収入 9600万円

粗利益 5900万円

一人当たりの粗利益 約1900万円

ランニングコスト 38.4%

〔平成16年の収支〕

収入 8200万円

粗利益 5600万円

一人当たりの粗利益 約1000万円

ランニングコスト 32.2%

【取り組んだ事項】

臨床検査科を認知してもらう。

- ・各部署とのコミュニケーション
- ・積極的に会議に参加する

信頼される臨床検査科を作る。

- ・臨床検査技師の知識・技術を高める。
- ・医師とのコミュニケーション
- ・経営者とのコミュニケーション

業務の効率化

・検査システムの導入

・時系列データの検索

迅速報告体制の確立

・前日の採血容器作成

・早朝検体集配、測定、報告

・病棟端末でのデータ検索

ランニングコストの削減

・再検査率の低下

・外注検査の値引き

・試薬コストの見直し

患者様サービスの向上

・採血業務

・糖尿病教室の開催

・採血容器作成

検査技師を増やす

・業務拡大

・検査依頼件数を増やす

【最終目標】

地域住民の皆様から愛され、安心して受診できる病院にする。

家族や親戚、友人に紹介できる病院にする。

【遣り甲斐】

「あなたの遣り甲斐は？」と質問されて具体的にこの業務と言えるものはありません。

採血業務で患者様が「痛くなかった」と喜んでもらえたら、それも遣り甲斐ですし、利益を増やす事、検査技師を増やしていく事、などの管理業務も私の遣り甲斐です。自分に与えられた仕事を一つ一つこなしていくことで、周囲からの信頼を得ることにつながり、最終的には患者様や病院のために役立つと考えています。臨床検査業務含め、与えられたすべての業務が私の遣り甲斐です。